

# 数学 広島大学 (前期) 数学 (文系)

## <全体分析>

試験時間	120分	解答問題数	4題
------	------	-------	----

### 解答形式

記述形式

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

### 出題の特徴や昨年との変更点

異なる分野の融合問題が多かった。

### その他トピックス

数学 (理系) 型との共通問題が1題あった。

どの問題も3題から5題の小問からなり、分量が多く感じられた。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	確率	A	さいころを3回投げるときの確率 $\frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} + \frac{1}{a_3} = 1$ となる確率	標準
[2]	微分法 積分法	II	共有点における共通接線 3次関数の最小値	標準
[3]	対数関数 数列	II,B	点列と漸化式 対数の不等式	やや難
[4]	三角関数 ベクトル	II,B	平面ベクトルの成分 三角関数のとり得る値の範囲	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

標準的な考え方の問題が中心であるため、各分野の基本事項を身につけ、典型的な問題については誘導がなくても解けるようにしておこう。

融合問題も多く出題されているため、単元を超えた問題演習にも取り組もう。

また、計算が煩雑な問題もあるため、普段から最後まで計算しつくすようにしておこう。